

# 大牟田市立高取小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校区には豊かな自然が多く残っており、また、学習を支援して頂ける人材や施設も豊富である。このような中、本校では、環境教育と福祉教育を中心に据えながらESDに取り組んでいる。ESDを推進するにあたっては、主として生活科や総合的な学習の時間において、他者や社会、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる児童の育成をめざし取組を行ってきている。

環境教育では、自然を愛したり、自然を大切にしている地域の人と関わったりすることで、自然を大切にしたいという心を持ち、自ら環境へ働きかけ、環境を守り、受け継ごうとする協働的実践力を培うことをねらいとしている。

福祉教育では、人間尊重の精神を基盤にして、道徳的心情を育成し、福祉に対する理解を深め、お互いに助け合い、協力し合い、住みよい社会をつくるための実践的態度の育成をねらいとしている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| (1) 1年生「みんななかよし」         | (生活科)       |
| (2) 2年生「レッツ・ゴー 町たんけん2年生」 | (生活科)       |
| (3) 3年生「わくわくドキドキお話たんてい団」 | (総合的な学習の時間) |
| (4) 4年生「心のキャッチボール」       | (総合的な学習の時間) |
| (5) 5年生「高取ホテルプロジェクト」     | (総合的な学習の時間) |
| (6) 6年生「ピースオンワールド」       | (総合的な学習の時間) |

## 3 特徴的な活動事例

- (1) 4年生 総合的な学習の時間 単元「心のキャッチボール」

### ①目標

高齢者の立場になったり、高齢者の身になっていろいろな体験をすることで、高齢者の気持ちを感じながら、高齢者の方と交流や、高齢者の方を援助・介護をする計画を立て、支え合いながら共に生きる社会をつくっていくために、自分たちができる事を考え、進んで実践することができる。

### ②展開

#### ○課題の設定

- ・市の校区の高齢化率をもとに市や地域で高齢化社会が進んでいることを理解する。
- ・絵本教室を開き、認知症について理解する。
- ・地域にある高齢者施設「延寿園」の訪問とそこでの交流を計画する。

#### ○実践1

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、「延寿園」のリモートでの訪問を行い、理解を深める。
- ・高齢者体験や介護について実習しながら、これからどのように関わり合えるかを話し合う。

#### ○実践2

- ・「延寿園」の方のためにできる活動（声のプレゼント、手紙、ビデオレター）を行い、高齢者



【延寿園のリモート訪問】

の方々と関わっていく。

### ③見直しと振り返り

- ・自分たちの取組を振り返ったり、スタッフに意見を聞いたりして、よかったところ不十分だったところを整理する。
- ・お世話になった方々（延寿園・地域・見守り隊）の方々へ年賀状を書く。
- ・自分たちの取組について学校内で報告会を開く。

## (2) 5年生 総合的な学習の時間 単元「高取ホタルプロジェクト」

### ①目標

校区の自然を調べることを通し自然環境の豊かな生き物の指標である「ホタル」を増やすことを目的として、環境保全に取り組む地域の人々や市役所や公民館人と関わり合いながら、自分たちにできる環境保全活動を考え実践していくことができる。



### ②展開

#### ○課題の設定

- ・長溝川にホタルがどのくらい飛んでいるのか 調べる計画を立てる。
- ・ホタル鑑賞会を行う。(6月夕刻)
- ・なかなかホタルが見られなかった状況を把握し、地域の環境を向上させ、再びホタルが飛びかう地域にしようと目標を設定する。

#### ○実践1

- ・環境課の方と長溝川のきれいさに関する調査を行う。
- ・カワニナを自分たちの手で増やす方法を考える。
- ・学校でホタルの川が作れるか調べる。

#### ○実践2

- ・長溝川のカワニナの生態を観察する。
- ・学校の池を整備しカワニナを飼育できるようにする。



【ホタル池の整備】

### ③見直しと振り返り

- ・現4年生にこれまでの活動を説明する。
- ・引き続き地域の環境をよくしていく活動の引き継ぎを行う。

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

(子どもの意識の変化)

- ・活動を行う過程で、子どもたちは地域の方やいろいろな関係の方からの支援やアドバイスももらった。そこで自分たちは地域の一員として生活しているという「地域への誇りと所属感」が育った。
- ・ホタルの幼虫やカワニナの飼育は失敗も多かった。環境をよくしていくことはすぐに結果にあらわれないので、これからも持続して活動していくことを確認できた。

### ○課題

- ・今回はリモートでの活動も行ったため、準備が必要だった。
- ・川の調査などの途中で大雨が降り、計画の変更を余儀なくされた。そのため、当初の計画であった「ホタルプロジェクト会議」が開催できなかった。会議に代わる手立てが必要。